

SDGs の視点を踏まえた 本市学校教育について

平成 30 年 11 月 6 日
北九州市教育委員会

1 北九州市のSDGs達成に向けた取組み

「SDGs」(持続可能な開発目標)は国連加盟国が合意した2030年の目標で、SDGsの17のゴールの多くは、「北九州市環境未来都市」を始めとしたこれまでの本市の取組みと大きく関連している。SDGs達成に向けた本市の取組みは、国内外で大きく評価され、2018年4月にOECDによる「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に、2018年6月には国による「SDGs未来都市」に選定された。(SDGsの17のゴールは、8～10ページの《参考1》を参照)

2 学校教育におけるSDGsへのアプローチ

(1) SDGsの概念「誰一人取り残さない」

教育現場においては、「誰一人取り残さない」という視点を持ち、

- ・ 特別支援教育をはじめとした障害のある子どもへの支援
- ・ いじめ、長期欠席(不登校)等へのきめ細やかな対応
- ・ 経済的に困難な世帯の子どもたちへの学習支援、経済的支援
- ・ 外国人・LGBTなど、マイノリティへの適切な対応 など

課題や困難を抱える子どもを取り残すことなく、教育委員会・学校の責務として、学力や進路を保証していくことが重要である。

(2) SDGsにおける教育の位置付け

教育はSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」に位置付けられ、さらには、「教育が全てのSDGsの基礎である」と言われている。

一方、本市ではこれまで、持続可能な社会の担い手を育む、ESDを踏まえた教育を進めてきている。ESDの推進を通じて、SDGsのゴール「質の高い教育」に貢献するだけでなく、SDGs全体の基盤にもなると考え本市教育を進めている。



教育/ESD と持続可能な開発目標 (SDGs)

※ SDGsとESDについて

SDGs : Sustainable Development Goalsの略。貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇・・・数多くの課題に直面し、安定してこの世界で暮らし続けることができなくなっているといわれている。そんな危機感から、「誰一人取り残さない」をキーワードとして、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てたもの。

- ・ 2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
 - ・ 子どもも含めたすべての人がそれぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている
- ※17の目標については、8～10ページの《参考1》のとおり

ESD : Education for Sustainable Development の略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されている。環境、貧困、人権、開発などの様々な地球規模の課題について、自分のこととしてとらえ、その解決に向けて自分から行動を起こす力を身につけるための教育。ESDの考え方は新学習指導要領でも示され、グローバル人材の育成にも資する重要なもの。

3 SDGsの視点を踏まえた本市学校教育の目標

学校の教育活動全体をSDGsの視点から見直し、多様な問題が絡み合い解決が困難な現代の課題の重要性について子ども達が認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を育む。

※SDGsの視点が含まれる学習のアプローチとしては、各教科、特別の教科道徳等以外に環境教育・福祉教育・国際理解教育・キャリア教育・情報教育・人権教育等が考えられる。



目標4「質の高い教育を本市全ての子どものために」

SDGsの視点を踏まえた本市学校教育のイメージ

■SDGsへのアプローチ

環境	環境アクティブ・ラーニング（小学校第4学年）総合的な学習の時間 ・体験を通して、本市の自然環境・環境保全についての理解を深め、実践力を高める。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11 住み続けられる まちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に 具体的な対策を 14 海の豊かさ を増やそう 15 陸の豊かさも 守ろう
人権	人権教育教材集「新版 いのち」「北九州子どもつながりプログラム」道徳、特別活動 ・人権に関する理解を深め、自他共に大切にする心情を育む。	5 ジェンダー平等を 実現しよう 10 人や国の不平等 をなくそう 16 平和と正義を すべての人に
福祉	高齢者体験・車いすバスケット交流（小学校高学年）道徳、総合的な学習の時間 ・体験や交流活動を通して、共に生きようとする態度を育む。	3 すべての人に 健康と福祉を 11 住み続けられる まちづくりを
キャリア	職場体験、農村民泊体験学習（中学校第2学年）総合的な学習の時間 ・職業に関わる体験活動を通して、生き方、働き方、進路についての理解を深める。	8 働きがいも 経済成長も 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう
国際理解	文化交流（小学校第6学年～中学校）外国語活動、総合的な学習の時間 ・交流活動を通して、異文化理解を深め、共に生きようとする態度を育む。	1 貧困を なくそう 3 すべての人に 健康と福祉を 17 パートナリシップで 目標を達成しよう
情報	ICT活用（小学校第1学年～中学校第3学年）各教科、総合的な学習の時間、特別活動 ・ICT機器の活用を通して、情報活用能力を育む。	4 質の高い教育を みんなに
ふるさと	新たな取組みとして地域教材資料集「(仮称) だいすき！北九州」(小学校第3学年～第6学年)の作成を検討 ・本市のまちのよさについての理解を深め、誇りと愛情を育む。	6 安全な水とトイレ を世界中に 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 11 住み続けられる まちづくりを

<持続可能な開発のための教育（ESD）の推進>

多様な問題が絡み合い、解決が困難な現代の課題の重要性について子どもたちが認識し、主体的・協働的に学び、行動するための能力・態度を、学校の教育活動全体を通じて育む。

SDGsの視点に立った教育活動で育成する資質・能力

- 自分事として課題を捉える力
- 進んで参加する態度
- 他者と協力する力
- つながりを尊重する態度
- コミュニケーション力
- 多面的・多角的・総合的な思考
- 未来像を予想した立案力
- 批判的に考える力

4 SDGs達成に向けた本市ESDの取組

ESDを推進することがSDGsの達成に貢献することを踏まえ、教育活動を通してSDGsが掲げる目標をESDに取り入れ、学校や地域で身近な課題解決を大切にしていく。

(1) 北九州市ユネスコスクール推進指定事業

環境未来都市としての本市の独自性を踏まえ、環境教育等において特色ある取組を行っている学校をユネスコスクール推進指定校とし、ESDを推進する拠点校としている。実践の内容においては、環境教育にとどまらず、福祉、国際理解、防災など、SDGsのいくつかのゴールを含む取組が行われている。ユネスコスクールは、ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じて情報や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すことを目的に設置されている制度である。本市では、登録を促進するために指定校を定め、登録を想定した活動の推進を支援している。

(各校の取組み内容については、11ページの《参考2》を参照)

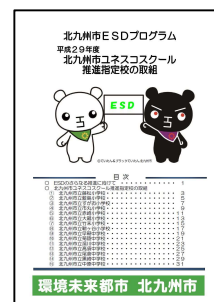
<推進指定校のユネスコスクール本部加盟登録状況>

	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
小学校	◎藤松	◎藍島	◎市丸 ◎すがお	◎赤崎	△大蔵	◎竹末	◎鞘ヶ谷
中学校	◎早鞆	◎菊陵	△湯川	△高須	◎尾倉	◎黒崎	◎中原

◎ 登録済 ○ 申請中 △申請準備中

(2) 北九州市ESDプログラムの充実

北九州市ユネスコスクール推進指定校の取組を中心に、実践事例集「北九州市ESDプログラム」を作成し、市内小・中・特別支援学校へ今後も配付する。これまでの実践事例を充実させ、ESDの普及を図り、SDGsの達成を目指す。



北九州市 ESD プログラム

5 環境教育を軸とした取組

これまで環境未来都市の取組を推進する本市の独自性を活かし、発達の段階に応じた環境体験活動や各教科等における環境に関する学習を進め、よりよい環境の創造や保全に主体的に取り組む市民環境力の素地を身に付けた子どもの育成を図る。

(1) 「環境アクティブ・ラーニング」推進事業

小学校第4学年全員を対象として、自然（平尾台、山田緑地等）に直接ふれたり、環境教育関連施設（環境ミュージアム、北九州エコタウン等）を活用した体験活動をしたりする。この学習を総合的な学習の時間の中で実施することで、環境の保全に主体的に取り組む態度の基盤となる環境保全への関心・意欲の喚起を図る。



山田緑地でのウォークラリー

(2) 北九州市環境リサーチ隊

環境未来都市としての市民環境力の素地を身に付けた子ども環境リーダーを育成してきた。本市の豊かな自然や環境関連施設での学習を通して、本市のよさを実感し、自分たちのまちづくりに自発的に関わりたいというシビックプライドの醸成に努めてきた。



平尾台でのフィールドワーク



ビジャセンターでの微生物観察

今後は関係各課と連携を図りながら推進方法を検討する。

【平成30年度実績】

8月1日～3日 市内小学校5年生～中学校1年生 30名参加

いのちのたび博物館、エコタウン、平尾台などで実施

6 人権教育を軸とした取組

本市作成の「人権教育教材集『新版 いのち』」や「北九州子どもつながりプログラム（北九州市対人スキルアッププログラム）」を年間指導計画に位置付け、計画的に人権教育を推進することで、幼児児童生徒が人権に関する知的理解を深め、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるような人権感覚を身に付け、自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度が実践力につながるように努める。



新版 いのち

7 福祉教育を軸とした取組

ボランティア体験活動、高齢者や障害のある人との交流など、社会にかかわったり、働きかけたりする体験的な学習を推進し、だれもが安心して生活できる福祉社会の担い手として、共に生きようとする実践的な態度を育成する。

(1) 車いすバスケット学校交流会

小学校高学年～中学生を対象に、北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会に参加する各国の選手との交流を通して、障害の理解やバリアフリーのまちづくりについて考えるきっかけとし、共に生きようとする実践的な態度を育成する。



小学生とオランダチームとの交流

【平成29年度実績】小学校7校 中学校1校で実施

8 キャリア教育を軸とした取組

幼児児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成するとともに、社会、職業との関連を重視した実践的・体験的な活動の充実を図る。

(1) 農村民泊体験学習・職場体験学習

中学校第2学年の生徒が、自然体験・農村体験を通じた人々との出会いやふれあいから、勤労・生産の喜びを体験するとともに豊かな人間性や社会性、コミュニケーション能力、自然を愛する心を育む。



農村民泊体験会での田植え

【平成29年度実績】全中学校で実施（職場体験25校、農業宿泊体験59校）重複あり

また、小学校においては、総合的な学習の時間等に、第6学年児童が将来の夢を考えるとともに就きたい職業について調べたり、その職業の方を招き話を聞いたりしている。働くこと、夢を持つことの大切さの理解等を養う。

9 国際理解教育を軸とした取組

学校・園の教育活動全体を通じて、体験的な学習・問題解決的な学習等を取り入れ、我が国の歴史や文化伝統に誇りや愛情をもち、広い視野に立って諸外国の文化を理解し人間尊重の精神やコミュニケーション能力等共に生きようとする実践的な態度や資質・能力を育成するため、E S Dを推進していく。

(1) イングリッシュキャンプ

中学生を対象とし、生徒が英語への興味・関心をより一層高めるとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成することを目的としている。英語科の教員や外国語指導助手と、英語だけを使用してコミュニケーションをとり、グループや個人での体験活動や課題解決学習を行う。

【平成30年度実績】

8月1日～3日 中学生93名参加 北九州市立玄海青年の家で実施



イングリッシュアクティビティ

(2) イングリッシュコンテスト

中学生の英語に対する興味・関心をより一層高めること及び英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的としている。個人で行う「暗唱部門」「課題部門」グループで行う「スキット部門」などを実施している。

【平成29年度実績】

平成29年9月30日 中学生274名参加 ウェル戸畑等で実施

※平成30年度は台風接近のため中止

(3) ふれあい国際交流教室

国際社会においてグローバルな視野にたち、主体的に行動するために必要と考えられる態度や能力の育成を図ることを目的としている。海外から帰国して日本人児童生徒、外国人児童生徒、及びその家族・友人が、ゲームやグループ活動などを通じて、自分や相手の国の文化について、相互理解を深める。

【平成30年度実績】

平成30年8月23日 保護者及び小中学生79名参加
北九州市立玄海青年の家で実施



ALT との交流

10 情報教育を軸とした取組

学校の教育活動全体を通じて、高度情報社会に適応できる児童生徒の情報活用能力を育成するとともに各教科等の目標達成のために効果的な、ICT活用を図るなど、教育の情報化を推進する。

(1) ICTリーディングスクール事業

わかる授業を実践するために、タブレットPCや電子黒板等のICT機器とデジタル教科書等デジタルコンテンツを活用した授業研究を推進する。

小学校2校、中学校2校を指定し(3年間)、その成果を広く学校等へ普及し、本市の学校教育全体の教育の情報化推進の充実を図る。

【ICTリーディングスクール】

平成28年度～ 門司海青小学校、高見中学校

平成29年度～ 門司中学校

平成30年度～ 高見中学校



振り返りのためのタブレットの利用

(2) 北九州市小学校プログラミング教育推進事業

プログラミング教育を推進するため、子どもたちの発達段階に合わせてプログラミングを学習するための、教科、教材、教具の開発及び授業実践研究を行う。これらの実践研究の成果を集約し、本市におけるプログラミング的思考を育成するための北九州市プログラミング教育指針である「北九州市プログラミング教育スタートパック」を作成し、その成果の普及を図る。

【平成30年度指定校】

門司海青小学校、今町小学校、志井小学校

今後の取組みの方向性

○ (新)ふるさと理解(シビックプライド)

北九州市のSDGs達成に向けた「『真の豊かさに』にあふれ、世界に貢献し、信頼される『グリーン成長都市』」の目標に向けた3つの取組「経済・社会・環境」について、学校教育を通して具現化を図るために、教科等の学習で活用できる教材「(仮称)だいすき!北九州」を作成し、市内すべての小学校第3学年児童への提供を検討する。本教材の活用により、郷土の視点から防災教育や世界遺産・地域の文化財等に関して理解を深め、自分たちのまちに対する誇りと愛情を育むことができるようにする。

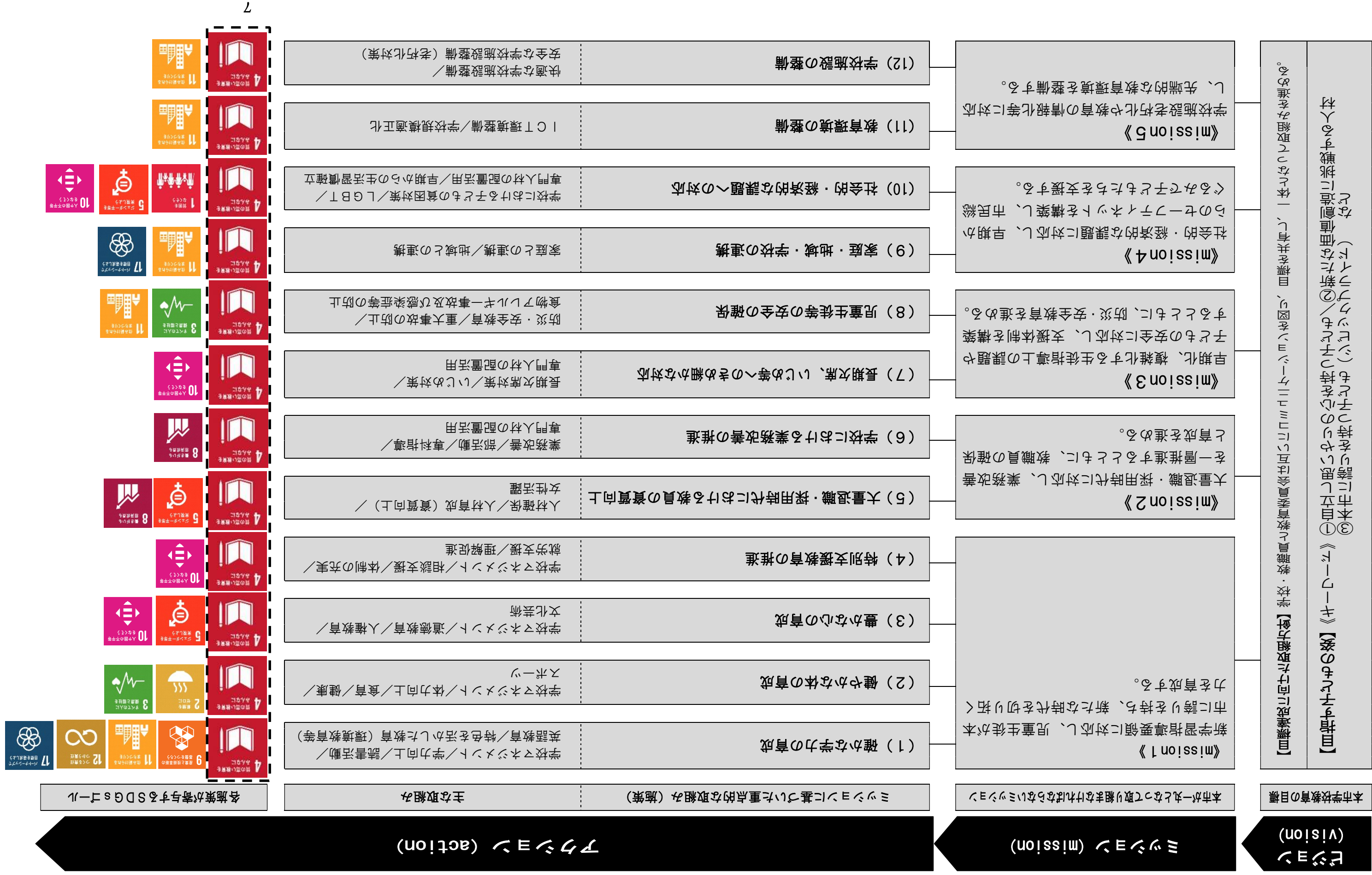
○ 国際理解教育に関する取組みの見直し

現在、個別に実施しているイングリッシュキャンプ・イングリッシュコンテスト・ふれあい国際交流教室の取組みを見直し、同期間・同場所で1つのイベントとして実施する。3つのイベントの統合によるスケールメリットを活かし、幅広く国際理解教育に対する周知を図る。

○ 次期教育プランとSDGsとの関係

現在、教育委員会で策定中の次期教育プラン(計画期間:平成31~35年度)に盛り込まれる様々な施策は、SDGsの様々なゴールに関わってきます。次期教育プランの施策体系(案)から見た、SDGsのゴールとの対応関係は次ページのとおりで、こうした視点も踏まえながら、教育施策を進めていく。

次期教育プラン構築体系図（案）



SDGs の 17 のゴール（和訳参照：UNDP 駐日代表事務所）

目標(Goal)	目標意識文（原文）
	1. 貧困をなくそう (NO POVERTY)
	2. 飢餓をゼロに (ZERO HUNGER)
	3. すべての人に健康と福祉を (GOOD HEALTH AND WELL-BEING)
	4. 質の高い教育をみんなに (QUALITY EDUCATION)
	5. ジェンダー平等を実現しよう (GENDER EQUALITY)
	6. 安全な水とトイレを世界中に (CLEAN WATER AND SANITATION)
	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに (AFFORDANCE AND CLEAN ENERGY)

8 働きがいも 経済成長も 	8. 働きがいも経済成長も (DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH)	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する (Promote sustained, inclusive and sustainable economic growth, full and productive employment and decent work for all)
9 産業と技術革新の 基盤をつくろう 	9. 産業と技術革新の 基盤をつくろう (INDUSTRY, INNOVATION, AND INFRASTRUCTURE)	強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る (Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation)
10 人や国の不平等を なくそう 	10. 人や国の不平等を なくそう (REDUCED INEQUALITIES)	国内および国家間の格差を是正する (Reduce inequality within and among countries)
11 住み続けられる まちづくりを 	11. 住み続けられる まちづくりを (SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES)	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする (Make cities and human settlements inclusive, safe, resilient and sustainable)
12 つくる責任 つかう責任 	12. つくる責任つかう責任 (RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION)	持続可能な消費と生産のパターンを確保する (Ensure sustainable consumption and production patterns)
13 気候変動に 具体的な対策を 	13. 気候変動に具体的な 対策を (CLEAN ACTION)	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る (Take urgent action to combat climate change and its impacts)
14 海の豊かさを守ろう 	14. 海の豊かさを守ろう (LIFE BELOW WATER)	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する (Conserve and sustainably use the oceans, seas and marine resources for sustainable development)

	15.陸の豊かさを守ろう (LIFE ON LAND)	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る (Protect, restore and promote sustainable use of terrestrial ecosystems, sustainably manage forests, combat desertification, and halt and reverse land degradation and halt biodiversity loss)
	16. 平和と公正を すべての人に (PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS)	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する (Promote peaceful and inclusive societies for sustainable development, provide access to justice for all and build effective, accountable and inclusive institutions at all levels)
	17.パートナーシップで 目標を達成しよう (PARTNERSHIPS FOR THE GOALS)	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する (Strengthen the means of implementation and revitalize the global partnership for sustainable development)

以上がSDGsの17のゴールの原文とその日本語訳です。次頁以降にこの17のゴールの下に設定されている169のターゲットを示します。

本市におけるユネスコスクールの取組内容

学校名	登録年月	取組内容
尾倉中学校 (八幡東区)	H24年7月	<u>環境教育、国際理解教育等を通じた国際平和促進と異文化理解教育の実施</u> ・学校周辺の清掃活動・3R活動など身近な環境活動・実践の継続 ・JICA研修員や他のユネスコスクール登録校との環境改善に関する交流
赤崎小学校 (若松区)	H25年7月	<u>環境視点から地域を見つめることによる持続可能な地域社会の担い手育成</u> ・校区に隣接した「エコタウン」や風力発電基地等を活用した <u>環境学習</u> ・全校児童・地域での空き缶リサイクル活動 ・生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域学習
すがお小学校 (小倉南区)		<u>地域に学び、大地と触れ合い、伝承の継承と感謝の心の育成を図る教育の推進</u> ・郷土の人・もの・こととのつながり・かかわりの理解(自慢・名人探し、郷土学習、高齢者等との交流、紫川生物調査等) ・農作物作りや収穫祭での振舞等など農業や食育のつながりを体感する特産創生型ふるさと活動
早鞆中学校 (門司区)		<u>環境教育、道徳・人権教育、キャリア教育を中心とした「心の育ちを支える教育活動」</u> ・花づくり活動や地域清掃、キャップ回収、廃油石鹸づくり、古紙回収等の実施 ・JICA研修員・留学生との国際交流 ・「リボンメッセージ」(いじめ防止週間の取組)
市丸小学校 (小倉南区)	H25年12月	<u>地域の豊かな自然・人・ことを活かした教材開発を行い、体験活動や表現活動を重視した学習の展開</u> ・農作物作りを通じた地域交流や絶滅危惧種の水草「ガンヤモク」保全活動、キャップ・プルタブ回収、表現力・思考力・コミュニケーション能力教育、平和・人権学習
藤松小学校 (門司区)	H27年1月	<u>物事を多面的・総合的に考える力、主体的に行動する力、防災意識を高める理科学習の創造</u> ・理科・生活科を通じ <u>自然・エネルギー・地域との関わり</u> を重視した活動(防災教育)、キャップ・プルタブ回収、清掃ボランティア等)
鞆ヶ谷小学校 (戸畑区)		<u>よりよい社会の実現を目指す人権学習</u> ・総合的な学習の時間を活用し社会貢献活動について調べ、児童自身が仕事、ボランティアについて知り、社会づくりに貢献できることを考える。 ・障害のある方との交流、ドリームマップ(将来の夢)作り
藍島小学校 (小倉北区)	H29年2月	<u>ふるさと藍島を愛し、豊かな心とたくましく生きる力をもった子どもの育成</u> ・スナメリウォッチング等を通じたスナメリの生態学習、干物作り、島内の清掃活動
菊陵中学校 (小倉北区)	H29年3月	<u>帰国・外国人生徒と一般生徒が共に高め合える教育活動を通して、持続可能な社会の実現に向けての実践的態度を養う国際理解学習</u> ・「届けよう、服のチカラ」プロジェクト ・JICA交流会、 <u>異国の文化学習</u>
黒崎中学校 (八幡西区)		<u>大手衣料品メーカーと連携した国際理解学習</u> ・「届けよう、服のチカラ」プロジェクトを通じた、難民の現状を題材とした学習
竹末小学校 (八幡西区)	H30年7月	<u>さまざまな人との関わりを通して、コミュニケーション能力を高め、豊かな心を培う総合単元的な教育活動(福祉・キャリア教育)</u> ・生活科、「保育園児との交流」(学習発表会への招待、おもちゃ作りでの交流など) ・総合的な学習、「職業人から学ぶ」市キャリア教育研究会とのワークショップ形式でのインタビュー
中原中学校 (戸畑区)		<u>地域に対する愛情を育む学習</u> ・ユネスコ無形文化遺産「戸畑祇園小中山笠」への参加を通して、 <u>伝統と地域への愛情</u> とともに活性化を図る。